

科目名	映像リテラシーB 2							年度	2024
英語科目名								学期	後期
学科・学年	放送芸術科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	石田桃子		教員の実務経験			実務経験の職種			
【科目の目的】 放送・映像業界が産業の転換期を迎える中、本当の意味で現場から求められる人材を育成すべく映像制作におけるより広く深い専門知識を学ぶと共に学生自身がより能動的に学ぶ機会を提供する事を目的として「MA・音響効果」「Adobe基礎・カラーグレーディング」などいくつかの専門科目を開講。									
【科目の概要】 「MA・音響効果講座」「Adobe基礎・カラーグレーディング講座」などを実施。尚、開講詳細については、年次・希望人数などの関係で変更の可能性があります。									
【到達目標】 各講座でそれぞれの基礎を理解し撮影・制作現場にて求められる最低限の専門知識を身につける。また、それらの応用として各講座で学習した専門知識を具体的に作品・番組に反映させた企画立案を目標とする。									
【授業の注意点】 講座によっては機材を扱う事もあるが使用の際は必ず担当講師・教員の許可を受けるもしくは指示のもとに取り扱う事。実習形式の授業も含まれる為、欠席・遅刻・途中退出については厳しく取り扱う事を理解する事また授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A MAの基礎	MAの概念を理解し、 PROTOOLSを使いこなしナ レーション収録が出来る		その歴史をある程度は理 解している			理解がおぼつかない			
到達目標 B 音楽、音声の役割	音の効果を理解し、音楽 からノイズまでを適切に 操ることができる		ある程度BGM、SEを加える ことができる			BGMやSEが適切でないもの になる			
到達目標 C ミキシング	トータルの作業としてミ キシングとトラックダウ ンまでを適切に行える		ある程度ミキシングとト ラックダウンまでが可能			正しくミキシングが出来 ない			
【教科書】									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 期末試験									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		映像リテラシーB2			年度	2024
英語表記					学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価	備考
1	MA基礎①		MA基礎①	MAとは何かを理解する(MA作業の流れ、音響専門用語の理解)		
5	MA基礎②		MA基礎②	MAに必要な機材を理解する(マイク、スピーカー、コンソール、DAWの役割)		
3	MA基礎③		MA基礎③	Protoolsの基本操作。設定、録音、簡単な編集ができるようにする		
4	MA基礎④		MA基礎④	ナレーション収録(マイキング、適正レベルの理解、ブースとのコミュニケーション)		
5	MA基礎⑤		MA基礎⑤	整音の意味と方法を理解し、単純な同録の仕込みができるようになる		
6	MA基礎⑥		MA基礎⑥	スムーズなカット		
7	音響効果基礎①		音響効果基礎①	音が映像に与える効果を理解し、SEの種類を覚える		
				(フォーリー、アンビエンス等)		
8	音響効果基礎②		音響効果基礎②	BGMの選曲の仕方を理解し、実際にテーマに沿った選曲をする		
9	音響効果基礎③		音響効果基礎③	自分たちで効果音を収録し、実際に作ってみる①(収録機材の使い方)		
10	音響効果基礎④		音響効果基礎④	自分たちで効果音を収録し、実際に作ってみる②(様々な音の再現)		
11	MA基礎⑦		MA基礎⑦	エフェクターの効果、使用方法を覚える		
12	MA基礎⑧		MA基礎⑧	イコライザーを理解し目的に合った音質を作る		
13	MA基礎⑨		MA基礎⑨	ミキシングの意味とその方法を理解し、それぞれの音の適正レベルを考える		
14	MA基礎⑩		MA基礎⑩	実際にミキシングができるようにする		
15	MA基礎⑪		MA基礎⑪	完成したMIXをトラックダウンし、データにして映像に当てこむまでの理解		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等